

トピックス

東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」関連情報

今年の 2 月中旬以降、ベトナムのハノイ、香港などで、原因不明で重篤な急性呼吸器感染症が流行しています。これまでに、264 名の患者（疑いを含む）（香港で 150 人、ベトナムで 56 人、シンガポールで 31 人等）と少なくとも 9 名の死亡者が発生しています（3 月 19 日現在 WHO（世界保健機関））。WHO は、この原因不明の感染症に関して、先週木曜日（3 月 13 日）に世界各国に「緊急渡航情報」を発信し、病気の特徴などを公表し、その後も情報の更新を継続し注意を呼びかけています。我が国の厚生労働省でも WHO の情報を受け、全国の自治体、医療機関等に関連情報を伝え、疑わしい患者の発生報告を依頼し、この時期に香港を訪れた 3 名の発熱患者が報告されていますが、今のところこれらのヒトは肺炎の症状もなく重症急性呼吸器症候群に罹っている可能性は低いと考えられています。

また、現時点でのほとんどの患者は、患者の医療に携わった医師、看護師などの医療従事者、それに患者と同居している家族で、学校を始め職場など一般社会での流行報告はありません。

可能性は非常に低いものの、我が国から香港やハノイ、それにシンガポールなどへの渡航者が非常に多いことを考えると、我が国にこの重症急性呼吸器症候群が侵入する可能性も考えておく必要があります。前述の地域（香港、ハノイ、シンガポールなど）に滞在した後 2 週間以内に疑わしい症状を示しているヒト、それに、それらヒトを診療する各医療機関においては、下記の WHO の症例定義を参考にして、適切な対応を取ることが強く勧められます。

原因不明の重症急性呼吸器症候群の症例定義

○ 疑いのあるもの

2003 年 2 月 1 日以降に以下の全ての症状を示して受診した患者で

- ・ 38 度以上の発熱
- ・ 咳、息切れ、呼吸困難感などの呼吸器症状

かつ、以下のいずれかを満たす者

- ・ 原因不明の重症急性呼吸器症候群の発生が報告されている地域(*)へ旅行した者
- ・ 原因不明の重症急性呼吸器症候群の症例を看護・介護するか、同居しているか、濃厚接触するか、患者の気道分泌物、体液に触れた者

* WHO が 3 月 18 日現在、報告されていると示した地域は、香港、ベトナム（ハノイ地区）、シンガポール、中国（広東省）、台湾、カナダ、タイ、ドイツ、スロベニア、英国である。

○ 可能性のあるもの

上の○疑いのあるもののうち、

- ・ 胸部レントゲン写真で肺炎、または呼吸窮迫症候群の所見を示す者

○ 予防方法

- 原因は今のところ不明ですが、ウイルス分類上は麻疹（はしか）やおたふく風邪の原因となるウイルスが属するパラミクソウイルスというウイルスが一部の患者さんから分離されたとの報告がなされています。いずれにしても、医師や看護師、それに患者と同居する家族など患者との濃厚接触者から多くの患者が発生していることを考えると、うがいや手洗いの励行など、一般的な衛生状態の保持は有効だと考えられます。
- WHO は当該地域への渡航に関して制限をしてはいませんが、米国 CDC は香港、中国広東省、ハノイ（ベトナム）などへの渡航に関し、絶対的な必要性がないかぎり延期を考慮するようとしています。

なお、感染源、病原体の確定など新たな情報が入り次第、再度この週報トピックスで皆様にお知らせします。

参考

[WHO](#)

Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) を参照してください。

[厚生労働省](#)

東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」関連情報を参照してください。

[感染症情報センター](#)

緊急情報 [重症急性呼吸器症候群](#)を参照してください。

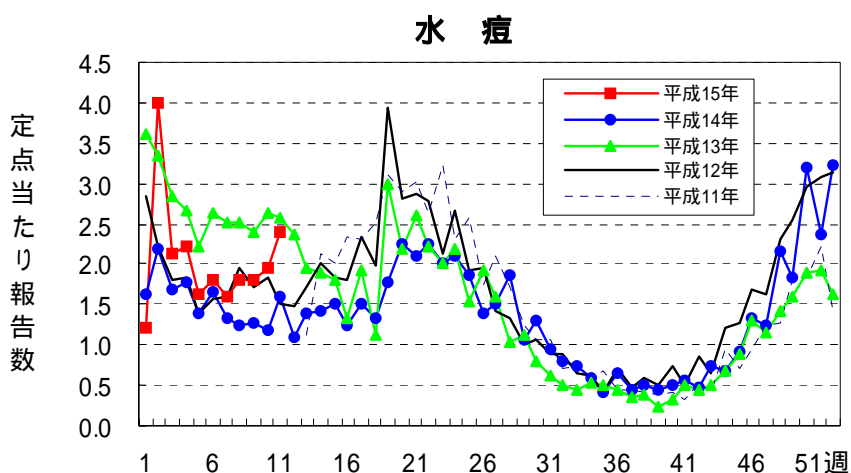
流行状況

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#) *レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症

定点当たりの報告数は 1.3（前週 1.1）と **やや増加**

[水痘](#)（みずぼうそう）

定点当たりの報告数は 2.4（前週 1.9）と **やや増加**



咽頭結膜熱 発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
定点当たりの報告数は 0.13（前週 0.11）と**やや増加**

感染性胃腸炎

定点当たりの報告数は 8.2（前週 8.2）と**同程度に推移**

インフルエンザ

定点当たりの報告数は 2.9（前週 3.3）と**減少**していますが、定点の先生方からのコメントでは、インフルエンザ B 型の報告が目立ちます。

厚生労働省インフルエンザ対策キャンペーンホームページ
インフルエンザ Q & A、キャンペーンポスターなどがダウンロードできます。
<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>



感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 3 歳男、4 歳男、14 歳女
病原性大腸菌 O6 2 歳男
病原性大腸菌 O18 30 歳女
病原性大腸菌 O8 8 歳男
病原性大腸菌 O124 8 歳女
胃腸風邪とインフルエンザが再び増加しています。
病原性大腸菌感染症の増加を不安に感じます。

【尾西市 城後小児科】

インフルエンザは A 型、B 型各 1 名
溶連菌感染症と感染性胃腸炎が目立つ

【一宮市 あさのこどもクリニック】

5、6 歳を中心にはじまって、胃腸炎が乳幼児及び小学生以上の年齢の子ども、大人に広がっています。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎の流行が続いています。
インフルエンザが少し増加しています。（11 名ありました。）
溶連菌感染症も少しみられます。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

インフルエンザは全例 B 型でした。

【江南市 河野小児科】

インフルエンザは全て B 型 8case と少なくなっています。(ワクチン接種は 2case)

ウイルス性胃腸炎 多発しています。

水痘も続発中

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

5ヵ月女 ロタウイルス (+) でした。

4ヵ月女 突発性発疹

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザは2名とも A B クイックにて A + でした。

【立田村 谷本医院】

尾張東部地区

ロタウイルス感染を含めた感染性胃腸炎が多くみられます。

カンピロバクター腸炎 1 例 (2 歳女)

手足口病みられます。

インフルエンザは兄弟で A 型 2 例です。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザは A 型については流行終了と思われれます。

インフルエンザ B 型が 2 例ありました (いずれも幼児)。

乳児でロタ下痢症少し目立ってきました (重症脱水での入院例もあり)。

マイコプラズマ感染症も多くみられます。

特定の保育園で水痘流行あり。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

インフルエンザ少々 (B 型のみ)

ロタ胃腸炎大流行

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週は感染性胃腸炎が多くみられました。

ロタウイルス (+) も 4 名ありました。

インフルエンザ B 型も 2 名ありました。

【春日井市 かちがわ北病院】

ロタウイルスによる胃腸炎が多く見られます。

インフルエンザは B 型が多いようです。

【小牧市 志水こどもクリニック】

ロタ胃腸炎多し、脱水入院例もある。
ある小学校でインフルエンザ B 型が流行

【小牧市 小牧市民病院】

アデノウイルス 2 ヶ月 1 人

【東海市 東海市民病院】

西三河地区

A 型インフルエンザ 3 歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

後日ですが、生かきの会食後の食中毒でしたという方がチラホラありました。

【豊田市 わかぞの東洋クリニック】

3 歳男 病原性大腸菌 O 1

【岡崎市 医療法人深田小児科】

5 歳女 病原性大腸菌 O 157 V T 1 (-)、V T 2 (-)

2 歳女、4 歳男 病原性大腸菌 O 25

【岡崎市 花田こどもクリニック】

B 型インフルエンザ 6 名

9 歳男 病原性大腸菌 O 1 V T (-)

2 歳男 カンピロバクター

【岡崎市 にいのみ小児科】

インフルエンザ A 型 5 歳女

インフルエンザ B 型 24 歳女、8 歳女と 36 歳女の母娘

【岡崎市 栗屋医院】

1 歳 ロタウイルス (+) 2 人

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザ B 型が増加

ムンプス流行中

【知立市 宮谷クリニック】

感染性胃腸炎もまだ見られます。

インフルエンザ B 型 10 人

【西尾市 山岸クリニック】

1歳2名、3歳男、10ヵ月女 ロタウイルス腸炎

1歳女 エルシニア腸炎*1

【幸田町 とみた小児科】

*1 エルシニア腸炎：主に、食中毒原因菌の1つである腸炎エルシニアが感染することによって、多くは急性大腸炎・胃腸炎などを起こすが、関節炎などの続発症が起こることもある。冷蔵庫でもゆっくりとではあるが増えるため、注意が必要。

溶連菌感染症が多くみられました。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

相変わらずインフルエンザB型が小学生、幼児に多く見られます。
溶連菌感染・水痘も散発しています。

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

水痘が増えています。

マイコプラズマが増えてきました。

【豊橋市 富田小児科】

ロタウイルス腸炎を含む感冒性胃腸炎が目立ちます。

【田原町 かわせ小児科】

1～3類感染症の発生状況（愛知県）

発生報告なし

全数把握の4類感染症の発生状況（愛知県）

アメーバ赤痢 1例 感染経路不明

急性ウイルス性肝炎（B型）1例 感染経路不明

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

校庭に沈丁花が匂うようになり、庭の隅に咲いた椿に目白が集まってきています。鶯のおずおずした初音が聞こえて季節の移ろいを教えてくれます。寒い日が多くてつらい冬でした。いつも貴重な情報をありがとうございます。3月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：第一日赤有吉先生からインフルエンザ A、B 共に減少、ウイルス性胃腸炎（ロタウイルス、アデノウイルス）の入院と RS ウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎が目立つ、名鉄病院宮津先生からはロタウイルス下痢症が大流行中で要入院例急増、年長児から成人まで年齢巾は広く、白色便例あり、水痘散発中、千種区今枝先生からはウイルス性胃腸炎ときどき、B 型インフルエンザの小流行が小学校であり、三菱病院入山先生からはインフルエンザは A 型（肺炎合併例と発熱 + 嘔吐、脱水で要入院例あり）B 型が混在しているが全体として減少中、溶連菌感染症、RS ウイルスとマイコプラズマ感染症を含む肺炎の入院、感染性腸炎（カンピロ、病原性大腸菌 O1、O125）の入院あり、中京病院柴田先生からはロタウイルス感染症増加中で要入院例も目立つ、労災病院山田先生からはインフルエンザ B（要入院例あり）、ロタウイルス腸炎（痙攣が多い）、アデノウイルス腸炎、溶連菌感染症が多く、水痘発生中とのお手紙をいただきました。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは溶連菌感染症散発中でロタ様の症状の胃腸炎が 5 - 6 歳を中心に乳幼児とやや高年齢層に拡大中、江南市昭和病院西村先生からはロタウイルス性胃腸炎の入院例目立つ、常滑市民病院上田先生からはロタウイルスを含む胃腸炎（要入院例目立つ）、ムンプス、突発性発疹、水痘、マイコプラズマ肺炎（要入院例多い）が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはロタウイルス腸炎（要入院例や目立つ）、インフルエンザがちらほら（B 型も）、加茂病院梶田先生からはロタウイルス感染症を含む急性胃腸炎症多く入院例が目立ち、EB ウイルスによる伝染性単核症 4 名あり、安城更生病院小川先生からはインフルエンザ流行が治まりつつありロタウイルス腸炎増加（脱水で要入院あり）、知立市近藤先生からはインフルエンザ A、B 共に減少、感冒性胃腸炎が多い、刈谷市田和先生からはロタ陽性を含む嘔吐下痢症が目立ち、アデノ陽性扁桃炎と溶連菌感染症時々、インフルエンザ B 散発、碧南市永井先生からは嘔吐を主症状とする胃腸炎症が目立ち、水痘増加中、豊橋市からはロタウイルスを含む感染性腸炎が多く、溶連菌感染症が散発中（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2003 年 2 月 14 日 (78 巻 7 号)

急性出血熱。コンゴ。2 月 12 日時点で 61 例の出血熱疑い例の届出があり、保健省と WHO、国際日赤などがウイルス検査と発生状況調査を開始。

急性気道感染症。中国。中国広東省当局は 02 年 11 月 16 日 - 03 年 2 月 9 日の間に 305 例 (死亡 5 例) の急性気道感染症発生を報告。現在までインフルエンザウイルスの分離は陰性。現在調査進行中。

予防接種安全性。WHO / ユニセフ合同会議。過去 4 年間にわたり定期的に合同会議が開催されている。注射器材の管理：使い捨て注射器の普及は世界全体で 00 年の 50% が 01 年には 65% に増加、特に欧州地区 (35% 67%)、アフリカ地区 (44% 61%)、南北アメリカ (39% 58%) が著明であるが開発途上国の低さが目立っている (01 年 42% : 世界統計、グラフあり)。予防接種後の副作用監視：世界の 53% の国が副作用届出制度を持っている。問題は調査網の精度と正確さにあり、今後の検討が必要である。

インフルエンザ。03 年 2 月。チェコ：B 型。ワクチン類似株。フィンランド：B 型。小児と高齢者。フランス、ドイツ：A 型 (H1N1、H3N2)、B 型。ロシア：殆どが A (H3N2)、A (H1N1) 散発。スイス：A (H3N2) と B 型。

2 月 7 日 - 13 日届出。コレラ：インド、イラク。黄熱：ブラジル、コロンビア、ペル - 。

2003 年 2 月 21 日 (78 巻 8 号)

エボラ出血熱。コンゴ：前号の続き。2 月 18 日時点で 73 例 (死亡 59 例)。臨床材料からエボラウイルス分離。WHO 専門家を含むチームが現地で活動開始。

インフルエンザ (H5N1)。香港：2 月 19 日時点で 9 歳男児を発端として両親、同胞が発症、死亡 2 例。当局が現在感染源等について調査中。

風疹・先天性風疹症候群。南北アメリカ：先天性風疹対策の現状。地区別：MMR ワクチンを定期接種と同時に成人女性にも接種：米合衆国、カナダ、キューバ、ウルグアイ等。女性に風疹ワクチン接種：ブラジル、チリ。小児期の定期接種だけ：アルゼンチン、ボリビア、ペル - 、エクアドル等。接種率：チリが 98%、ブラジルで 95%、コスタリカが 99%。ウイルス・血清学的調査：流行株の検査と IgM 抗体検査。流行の実態を明確にするサ - ベイランス調査網整備。

インフルエンザ。03 年 2 月。ベルギー - : 2 月初旬 A 型流行。死亡例あり。チェコ：A 型 (H3N2、H1N1) と B 型流行。フランス：B 型。ドイツ：A (H3N2) 主体。イスラエル：B 型。スイス：A (H3N2) 増加中。ウクライナ：学童で発生中。

2 月 14 日 - 20 日届出。コレラ：モザンビ - ク、ウガンダ。

第9週(15年2月24日~3月2日)の4類感染症 (全国)

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、過去3年間の同時期の平均に比べ1.6倍となった。都道府県別では長崎県(1.3)、青森県(1.0)、沖縄県(1.0)からの報告が多い。他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて特別多くなってはいない。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続して増加した。前者は引き続き富山県(4.3)からの報告が多く、後者は大分県(22.9)、宮崎県(22.4)など九州地方を中心に、21都道府県から2桁の報告がある。風疹は岡山県(0.3)からの報告が前週より増え、全体の3割を超えている。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は前週から変化はないが、宮崎県(0.9)、福島県(0.7)、鹿児島県(0.4)で多い。水痘の定点当たり報告数は全体としては微減したが、沖縄県(8.9)からは前週同様非常に多く、宮崎県(4.3)、佐賀県(3.2)からの報告も引き続き多い。流行性耳下腺炎は秋田県(2.6)からの報告が更に増えた。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、香川県(3.3)を始め、中国・四国地域(1.33)が全国(0.62)の2倍以上ある。インフルエンザの定点当たり報告数は5週連続で減少し、13.3となった。34の都道府県で前週より減少したが、徳島県(26.0)、大分県(25.2)、佐賀県(20.2)では前週より3.5以上の増加を示している。秋田県(32.4)、山形県(30.8)、岩手県(30.1)からの報告は依然多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

